

カーン市長のロンドン：1月以来1,300件以上の刺殺傷事件が発生

10代少年がロンドンの繁華街で“はらわたを垂らして”死亡

【訳者注】サディク・カーンという、イスラム教徒のロンドン市長の下で、なぜこれだけ凶悪犯罪が増加しているのか？ これは彼が、犯罪を奨励はしないまでも、意図的に放置しているからとしか考えられないだろう。それがなぜかは、これを読めばわかってくるが、この女性警視の言葉に注目せよ。説明というより訴えのような、彼女の説明を聞くならば、その悲痛な事情がわずかながら見えてくる。これはかつて、同じイギリスで、多数の少女強姦が放置されている事情を述べた、記事を参照すべきである。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180714.pdf>

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/180713-1.pdf>

これはまた、アメリカのニューメキシコでの、あのイスラム教徒犯罪者に対する、法廷の理不尽に寛容な、無罪放免措置ともつながる。これは（かつての左翼の“世界同時革命”に似た）、世界同時の、政府による内乱準備計画であろう。イルミナティ「新世界秩序」の目指す「秩序」とは、漁夫の利のような、Order out of Chaos（混乱からの秩序）のことである。

Daniel Newton, www.neonnettle.com

August 17, 2018



ロンドン繁華街の路上で起こった恐るべき4重の刺殺傷事件で、一人の10代の少年が、はらわたを垂らしながら懸命に戦っている。

サディク・カーン市長（イスラム教徒）は、この都市が今年1月以来、1,300件以上の刺殺傷事件を記録し、2018年が虐殺の年になりつつあるとして、大反発・大批判を受けている。

この事件は、キャンバーウェルのエルミントン・エステート近くの、“殺人マイル”と呼ばれる、ロンドンの一角で起こった。ある目撃者は、「4, 5人の黒人少年が走っていくのが見えたが、突然、〈助けて！〉という声が聞こえた」と言っている。

MailOneによれば、別の怯えた住民は、刺された4人の犠牲者の1人は、ひどい傷を受けて、「彼の内臓が地面に垂れ下がっていた」と言った。

サディク・カーン、すなわち前ロンドン市長を非難する人々は、彼が、この都市の増え続けるナイフ犯罪に取り組むよりも、“virtue signaling”（政治的立場や主義などを示す、身につけるリボンなど）に関心があると言って、非難している。

<https://neonnettle.com/news/4473-uk-welcomes-trump-with-baby-balloon-saudi-prince-gets-royal-lunch-invite>



Breibartによれば、年齢15から16といわれる、6人の男性容疑者は、この事件のあとで逮捕されたが、これは、drill rapper ミュージシャンのSidique Kamaraが、今月初めに刺殺された通りから、わずかの距離の所にある。

警視 Annmarie Cowley はこうコメントした：——「この事件はまだ、ごく初期の段階で、現在、我々はそれがどういう性質のものか、見当もつきません。」

「我々が確かに言えることは、ナイフ犯罪の完全に無意味な例があるとしたら、これこそ、それだということです。4人の男性は入院しており、この段階で、彼らの負傷がどの程度、深刻なのかは言えません。これはまったく理解できないことです。

「私は、警察官たちは、全く健全に対応していると、住民たちに保証したいと思います。我々は現場に留まっており、「地域支援グループ」からの追加の援助と、「暴力犯罪警備隊」の地域パトロールを要請しています。

「その上、セクション 60 は、8月17日、金曜日の18時半から9時半まで、許可を得て、武装警官を配置し、これ以上のトラブルが起きないように警戒しています。

「この事件を目撃された方は、誰でも警察に通報し、見たことを教えてくださいようお願いします。もし警察に通報することで、面倒なことになり心配だという人があれば、あなたの情報は、これ以上ない秘密扱いをすることを保証します。

時事情報：「ジョン・ブレナンが、トランプ大統領に対する死刑を要求」

<https://neonnettle.com/news/4820-john-brennan-calls-for-death-penalty-against-president-trump>

「もしあなたが、警察に話すようなことはしたくないが、何かを知っているような場合には、愛する家族が今、病院に入院している人たちのことを、思いやっていただきたいのです。正しく行動し、我々に話してください。この犯罪の犯人たちが、罰を受けずに済むようなことがあってはなりません」と、彼女は最後に言った。



サディク・カーンのロンドンは、新しい警察テータによれば、昨年一年の間に、殺人、暴力的な略奪、家屋への強盗を含む、深刻な犯罪の「呆然とするようなエスカレーション」を体験した。

酸をかける攻撃、刺殺傷、銃撃などが、労働党市長のサディク・カーンの下の英国首都で、ますますコントロールを失いつつあった。市長は、この犯罪の大波の責任を、中央政府の人員削減のせいにしてきた。

しかし、犯罪を止め調べる警察の権力行使を、抑えようとするのは、彼自身の努力でもあり——それは、権力が、あまりにもしばしば、非白人容疑者に対して用いられると、彼が考えたからだ——また、“オンライン・ヘイト犯罪取り締まり局”のような、疑わしいプロジェクトに、何百万のカネをつぎ込む決定などは、かなり激しい一般の批判を受けてきている。

——以上